

校舎の耐震不足の状況と今後の対応について

校舎の耐震状況と今後の対応等につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、今後の対応状況については、随時ホームページでお知らせしてまいります。

記

1 校舎の耐震診断結果

◆ 平成 22 年 3 月建築事務所による耐震診断報告書より抜粋

校舎棟	A棟	B棟	C棟	第1体育館
I s 値	0.45	0.30	0.46	0.28
q 値	1.30	1.03	1.59	0.85

【参考：既存学校施設の耐震化推進計画策定フローにより3通りに分類】

改築	I s 値 0.3 未満、または q 値 0.5 未満
耐震補強	I s 値 0.3 以上、0.7 未満、または q 値 0.5 以上 1.0 未満
耐震上の問題なし	I s 値 0.7 以上、かつ q 値 1.0 以上

【参考2】

※ 日本耐震診断協会による、震度6強から7程度の地震が起きた場合の被害

- ・ I s 値(地震に対する総合力)：0.3 未満は、倒壊する危険性が高い。
- ・ q 値(建物が地震による水平方向の力に耐える強さ)：1.0 未満は倒壊の危険性がある。

2 今後の対応等について（別紙参照）

(1) 第1体育館

- ・ 当分の間、使用を中止し、その代替施設は、耐震基準を満たしている系列校の新潟中央短期大学の体育館を利用して、授業や部活動等を行います。
- ・ 高校校舎と看護科・看護専攻科棟を行き来するためには、構造上、第1体育館を横切る必要があることから、一部を通路として使用することがあります。
- ・ 耐震補強することを前提に準備を進めてまいります。

(2) B棟

- ・ 当分の間、使用を制限し、B棟で行っている授業はC棟で行います。
- ・ 使用制限の理由は、A棟とC棟を行き来するためには、構造上、1階の廊下を通路として使用することがやむを得ないと判断しました。
- ・ 事務室や教務室、進路指導室などは、B棟以外の棟に順次移転するように、準備を進めているところです。

(3) その他

- ・ 耐震不足の校舎の対策については、今後速やかに検討することにしております。
- ・ 第2体育館及び看護科・看護専攻科棟については、国の耐震基準を満たしております。